



新入社員の合同入社式を実施

～業界他社の同期の仲間づくりと人材定着のために～ 一般社団法人山梨県鉄構溶接協会

一般社団法人山梨県鉄構溶接協会(清水一彦会長 57社)は、業界の人材確保のために、これまで社員の溶接技術の研修や競技大会の主催をはじめ、溶接に携わる人材の裾野拡大のため高校生に対する溶接技術の講習などにも取り組んできた。協会では、平成27年度から会員企業の新入社員を対象に合同での新入社員の集合教育(OFF-JT)を行ってきたが、

今年度の集合教育の開講式を前に4月からの新入社員を対象に「合同入社式」を初めて行った。

4月10日(火)の山梨県鉄構会館を会場に行われた合同入社式には、4社から女性1名を含む14名の新入社員が出席した。業界では小規模の会社が多いため、単独での採用人数も少なく、毎年定期採用することが難しい



会員企業4社の新入社員14名が緊張した面持ちで参加した

ことから、新入社員の教育と定着が課題となっていた。そこで新入社員の合同集合教育に加え、初めての試みとして合同入社式を行った。

清水会長は、「合同での集合教育を通じて、会社の垣根を超えて同期の仲間をつくり、互いに切磋琢磨し、会社の一員、業界の一員として成長して欲しい。先輩や上司をはじめ人とのコミュニケーションの中で人間性や価値観は磨かれるので、様々な事象に思いをめぐらせ、チャレンジし、吸収し、会社の役に立つ人材へと成長してくれることを期待しています。」と激励をおくった。

今回の入社式は延べ30日間行われる合同集合教育に参加する社員が中心となったが、協会ではこの合同入社式を多くの会員企業に広げていきたいとしており、今後も業界全体で人を育てる各種の取り組みを続けていく。



記念撮影